

2005年12月5日

ビズネット株式会社
三菱商事株式会社

ビズネット、三菱商事とFSC森林認証紙のバリューチェーン構築

オリジナルブランドコピー用紙「NEO(ネオ)」を新発売

大手・中堅企業向けにオフィス用品調達のBPO(ビジネス プロセス アウトソーシング)サービスを提供するビズネット(本社:東京都文京区、社長:中嶋光正 JASDAQ 証券コード 3381)は、三菱商事と共同で、環境に配慮した紙としてFSC森林認証紙を供給するバリューチェーンを構築します。

ビズネットは三菱製紙株式会社(本社:東京都千代田区、社長:佐藤健)のFSC森林認証紙を使ったオリジナルブランドコピー用紙 NEO(ネオ)を12月中旬より新発売いたします。同商品が掲載されている12月1日発刊の「2006年度版カタログ」(詳細は別添の通り)では用紙全量に就いても三菱製紙のFSC森林認証紙を使用しております。当初計画使用数量は約3,000トン/年でFSC森林認証紙の単一案件としては最大規模となる見込みです。

三菱商事が三菱製紙と共同経営するチリの植林は2002年10月にFSC認証を取得しております。三菱商事がチリでチップに加工した認証材を三菱製紙八戸工場に納入し、認証材の年間受け入れ数量に基づいて三菱製紙が認証紙を生産いたします。三菱製紙はFSC森林認証紙の生産能力が約70,000トン/年であり、同認証紙に於ける国内トップメーカーです。

従来は環境への負荷の少ない紙の原料としては、廃棄物の削減や森林資源への過度な需要圧力の緩和に貢献する古紙パルプの使用が一般的でした。しかし、グリーン購入ネットワーク(企業、自治体、各種行政団体等で構成する特定非営利活動法人(NPO法人))が定める購入ガイドラインの10月の改訂では、古紙パルプと比較してバージンパルプの方が製造工程における化石燃料由来のCO2排出量が少なくなることを踏まえて、環境に配慮したバージンパルプの原料としてFSC認証材が新たに加えられました。地球温暖化への関心の高まりから、FSC森林認証紙を採用するユーザーが今後増えてくると見られています。ビズネットは、「2006年度版カタログ」を通じて、FSC森林認証コピー用紙の採用を積極的に提案してまいります。

FSC森林認証紙は、FSC認証林から生産された認証材と、合法性やトレーサビリティ等が確認されている非認証材から成り立っています。森林が認証を得る為には、生態系や景観が保全されると共に、地域社会が経済的な便益を得られる状態で管理されていることが必要です。

(参考)FSC(森林管理協議会):Forest Stewardship Councilの略で1993年に設立。本部はドイツ。2005年11月現在、世界65ヶ国の約6,716万^{ヘクタール}、日本では約26万^{ヘクタール}の森林がFSC認証を取得。

以上